

2022年4月10日（日）／説教者：神谷武宏

説教：「イエスは自ら十字架を背負う」

聖書：ヨハネによる福音書19：17～30

今日から受難週に入る。17節に「イエスは、自ら十字架を背負い」とあるが、他の福音書では、途中「キレネ人シモン」が登場して、むち打たれ、衰弱し十字架を担ぐことの出来なくなったイエスの代わりに十字架を担がされるが、しかしヨハネ福音書には、シモンは登場しない。イエスは、自ら十字架を背負ったというふうに描かれている。その他にも、十字架の前の苦しみ祈るイエスの「ゲッセマネの祈り」もない。ヨハネ福音書は、十字架へと向かうイエスの姿、十字架に対し、逃げ隠れしないキリストを強調している。

30節に、十字架上で「成し遂げられた」とある。これはただ単に「終わった」というものではなく、もう少し積極的に「実行する、最後まで貫徹する」という意味合いがある。「イエスは、自ら十字架を背負い」、「最後まで貫徹する」「成し遂げられた」ということを、ヨハネ福音書は強調している。では、その十字架とは何か？罪の赦しの十字架……。福音書はその罪の赦しの十字架……。ということでは終わってはいない。ヨハネ福音書16章33節に「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」と、この世での勝利宣言が成されている。このことは、十字架に勝利したキリストが、十字架にかかる以前にこの世での勝利宣言をしている。

十字架は、ただ単に罪の赦しの十字架というだけでなく、十字架とは、この世の様々な苦しみ、悲しみ、その嘆きであるすべてをキリストは担ったということ。この世で苦難がある者、悲しみ、嘆きがある者の十字架を、あなたの十字架を、イエス様が担ったということ。今なお、あなたには苦難があるか？今あなたは悲しんでおられるのか？拭い去ることのできない嘆きがあるのか？そのあなたの十字架を、キリストは共に担っておられるということであり、そのあなたに「勇気を出しなさい」と語っておられるのである。

イエスが十字架にはりつけにされた後に、その十字架の下には二組の対照的な人々が記されている。4人の兵士たちと4人の女たち。苦しめる者と苦しむ者。双方は絶対に相容れないが、しかし二つの対極の群れはキリストの十字架の下にある。二つの対極の群れがキリストの十字架に気づかされる時、苦しむ者は慰めを受け、苦しめる者は悔い改めに導かれていく。そのようなキリストの希望が十字架にはある。ゆえに「イエスは自ら十字架を背負う」のである。（神谷）